



執筆・早稲田進学会（大島茂）イラスト・青山ゆういち

野菜の地産地消のメリットと卸売価格の決まり方を考えてみよう。

挑戦!

いわてけん立一関第一高等学校附属中学校  
2019年度 適性検査から抜粋（一部改変）

さとしさんとみゆきさんの学校では、給食センターの栄養士さんを招いて、食生活についての授業を行いました。

栄養士：みなさんは、このロゴマークを見たことがありますか？

みゆき：先日、スーパーマーケットで見ました。毎月第4金・土・日曜日を「いわて食財の日」としているんですね。

栄養士：よく知っていますね。岩手県では、いろいろな地産地消の取り組みを行っています。「いわて食財の日」も、その一つです。

さとし：地産地消ってどういう意味ですか？

栄養士：地元で生産した食材を、地元で消費するという意味です。A地産地消に取り組むことは、様々なよさがあります。

さとし：なるほど、ばくも地産地消にどんどん協力したいと思います。

みゆき：そういえば、今日は第4金曜日だから、ちょうど「いわて食財の日」ですね。

栄養士：実は、今日の給食のメニューでは、「いわて食財の日」にちなんで、全国でも上位の生産量を誇る岩手県産の食材をたくさん使っています。みなさん、どれが岩手県産かわかりますか？

さとし：なんといっても、デザートのリンドのゼリーがおいしそうだ。これはきっと岩手県産だと思います。

栄養士：正解です。リンドの生産量は、青森県、長野県、山形県に次いで、岩手県が全国4位です。今日のゼリーは、代表的な品種「ふじ」が使われています。

みゆき：お米やスープのわかめも、きっと岩手県産ですね。

栄養士：みなさんさすがですね。お米は全国10位、わかめは全国2位ですよ。それから、ピーマンの肉詰めに使った牛肉は全国5位、豚肉は全国7位、Bピーマンは全国5位です。特にピーマンは夏の今が旬ですから、みなさんぜひたくさん食べてくださいね。

いわての食財  
いわての食材はみんなの健康!!  
ロゴマーク

今日の給食

## 資料問題編② 地産地消の良さと市場価格の決まり方

みゆき：Cピーマンは1年中スーパーマーケットで売っているけど、夏が旬なのですね。

栄養士：ピーマンは、ビタミンCなどの栄養が豊富で、疲労回復にも効果的です。

さとし：給食がとても楽しみです。帰ったらお母さんにも教えてあげたいと思います。

(文中の順位は農林水産省 平成29年「作物統計」「畜産統計」「漁業・養殖業生産統計」による)

問題1 下線部A、Bについて、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 下線部Aについて、地産地消に取り組むことは、どのようなよさがありますか、例を1つあげて書きなさい。

(2) 下線部Bについて、さとしさんは次の資料1を見つめました。資料1をもとに、ピーマンの全国の総生産量を求めなさい。ただし、答えは四捨五入して上から3けたのがい数で書きなさい。

資料1【ピーマンの都道府県別生産量上位5県】

| 順位 | 県名  | 生産量(t) | 全国に占める割合(%) |
|----|-----|--------|-------------|
| 1位 | 茨城  | 35500  | 24.1        |
| 2位 | 宮崎  | 27600  | 18.8        |
| 3位 | 高知  | 14000  | 9.5         |
| 4位 | 鹿児島 | 12600  | 8.6         |
| 5位 | 岩手  | 7180   | 4.9         |

(農林水産省「平成29年度野菜生産出荷統計」より作成)

授業の会話の下線部Cについて、さとしさんは次の資料2、資料3、資料4を見つけ、お母さんと次のような会話をしています。

さとし：資料2を見ると、岩手県産のピーマンは、夏から秋にかけて取扱量が多くなっているね。

母親：岩手県でピーマンが栽培されない時期には、主に宮崎県産のピーマンが入荷されているね。おかげで、1年中ピーマンを味わうことができるわ。

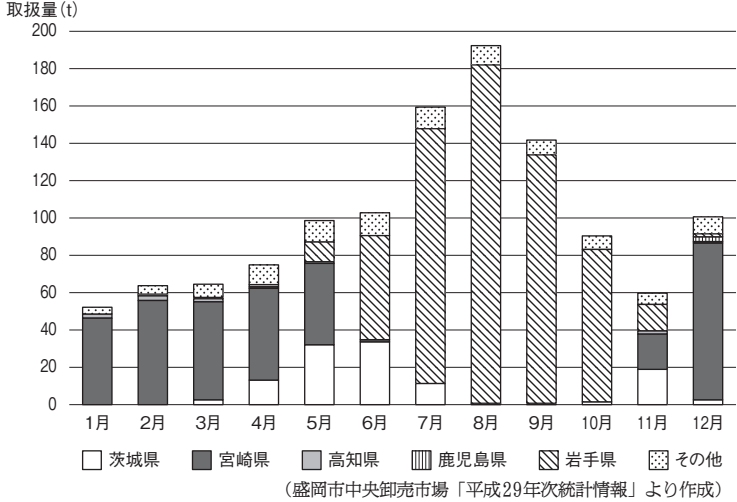
さとし：資料3を見ると、宮崎県は岩手県よりずっと南にあるけど、冬の気温はピーマンの生育適温よりずっと低いよ。

どうして出荷できるんだろう？

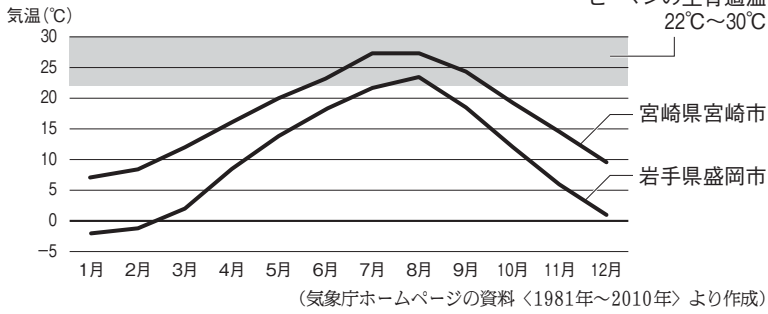
母親：宮崎県では、ビニールハウス内を暖房装置などで暖めて、ピーマンの栽培を行っているそうよ。

さとし：そうなんだ。B夏にピーマンを栽培するよりも経費が多くなるのに、どうしてわざわざ冬に栽培するのかな？

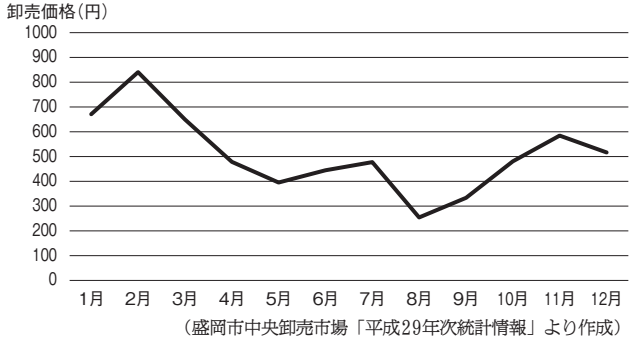
資料2【盛岡市中央卸売市場におけるピーマンの月別産地別取扱量の移り変わり】



資料3【岩手県盛岡市と宮崎県宮崎市の月別平均気温】



資料4【盛岡市中央卸売市場におけるピーマンの1kgあたりの卸売価格の移り変わり】



問題2 会話の下線部Dについて、ピーマンを冬に栽培すると、宮崎県の生産者にとってどのようなよさがありますか。資料2と資料4をもとに説明しなさい。

解説・解答を見ないで、まず自分で分析してみよう！



問題1 (1)「地産地消」の良い点をイメージを広げて考えてみましょう。①野菜など生鮮食品であれば取れ立てで新鮮です。②地元のものを利用することで地元の産業が育成されます。③輸送面で見ると、輸送距離が短くなるため、運送にかかる燃料代が安く済み省エネとなり、さらに、トラックなどが出す排気ガスも少なくなり地球環境にやさしい。④地元の食材を給食などで出すことで、子ども達が地域の産業を知るきっかけとなります。(2)例えば、茨城で計算方法を見てみると、全国総生産量×24.1%＝35500tですから、35500÷0.241＝147302.9...tとなり、四捨五入して上から3けたのがい数を求めるので、4けた目を四捨五入して算出します。

問題2 資料問題では、複数のグラフから、ある現象を説明させることがしばしばあります。本問でも、ピーマンを冬に栽培するよさを、資料2と4を関連させて分析をします。両グラフの11月～3月に着目すると、取扱量は他県は非常に少なく、市場での価格が2～3倍になることがポイントとなります。



問題1 (1)産地が遠いものより、地元のものの方が新鮮なうちに食べることができるというよさがある。(2)約147000t

問題2 他の産地の取扱量が少ない時期に出荷することで、高い価格でピーマンを売ることができるよさがある。

＜水曜に掲載します＞